## ~ 欣浄寺法語メール~ 2 0 1 7 年 7 月 ~ 「金平糖」

ラジオ体操を終えた小学生が「夏休みお経の練習」に集まってきます。今春から始まった本堂修復で内陣前方にお出ましの阿弥陀さまがにっこりと微笑んで子どもたちを迎えてくださいます。夏の日差しが差し込む広く高いお御堂の空間に、子どもたちの元気なお経の声が響きます。

京都嵯峨嵐山にある臨済宗(禅宗)の本山 天龍寺の管長に橋本峨山(がざん)という僧 がいました。幕末の動乱で荒廃した天龍寺を 再興した高僧として知られていましたが、ご 近所の子どもたちにも大評判、その理由が「金 平糖」!・・・。天龍寺にお参りすると金平 糖がもらえるとの噂が広がっていたからで す。それを聞きつけた子どもたちがおそるお そる訪れると、橋本峨山は子どもの前に大き な瓶を置き「この中に金平糖が一杯入ってい る。好きなだけ持って帰れ」と促します。喜 びいさんで瓶の中に手を入れ金平糖をわしづ かみにするのですが、瓶のくびれにつかえて 手を抜くことができません。半べそをかいて いる子どもに峨山は、拡げた子どもの両手一 杯に瓶から直接金平糖を分けてあげるので す。そしてこう諭したそうです。「仏さまの 教えも同じ。つかんでは駄目だ、いただくも のだ」と。

お経(聖典)を頂戴するという作法があります。お経(聖典)はまずうやうやしく額の高さまでもちあげてから胸の前で開くのです。この作法をまた「いただく」とも言いま

す。明朝もまた「いただいた」後、子どもた ちのお経の声がお御堂に響きます。